

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 長野県 】

学校名【 長野市立更北中学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・③・Ⅳ・Ⅴ（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	1 学年（189名） 3 学年（210名） ※保護者・地域の方の参加はなし
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 （ねらい）	オリンピックの価値は、オリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有でき、日常生活や学校生活にも活かすことのできるものであることを学習する。
5 取組内容	【長野車いすマラソン大会アスリート講演会－6月】（3年）   長野車いすマラソンクラブに所属する青木選手を講師にお迎えし、講演会を行った。競技との出会い、車いすマラソンの魅力、感謝の気持ちの大切さなどについてお話しいただいた。学区に隣接した地域には南長野運動公園があり、長野マラソンのゴール地点になっており、本校には、会場でのボランティアを行っている生徒もいるため競技への関心や競技者への思いを深められた時間となった。 【オリンピックを知ろう旬間（生徒会活動）－6月】 運動委員会がオリンピック・パラリンピックに関心をもってもらおうと企画。給食時のテレビ放送で、競技内容や注目選手を紹介した。 【パラリンピアン講演会－8月】（1年） パラアルペンスキーヤーの小池岳太選手をお招きし、講演会を

開催した。小池選手の競技を始めるきっかけとなった出来事や中学時代の様子、パラリンピック出場時の姿などを映像とともにお話しいただいた。「より相手に興味を持ち、お互いを知って尊重しあう心」や「自分から変わっていかこうとする意識」が自分らしく誇りをもって生きることにつながっていくと教えていただいた。

競技や練習で使用している自転車やスキー道具を多数持参いただき、生徒が触れることもでき、競技を理解し、身近に感じる機会にもなった。



【パラスポーツ出前講座：ボッチャ体験－９月】（３年）

パラアスリートの加藤正さんを講師にお迎えし、ボッチャの体験会をクラスごとに計６時間開催した。

事前に「I'm POSSIBLE」で競技について学んだり、東京パラリンピックで競技の様子を見聞したりしていたこともあり、



興味をもって活動に取り組めた。「障がいがあったり身体が不自由だったりする人を大切にしていきたいし、大会に向けて努力している姿は素晴らしいと思った」

「パラスポーツに興味をもちました。地域の人たちとの交流でいかしたいです」などの感想がみられた。



ステージ上にコートを設置。休み時間は自由に取り組めます。

【更北オリンピック（文化祭）－９月】（全校）

文化祭の運動会を更北オリンピックと名づけ、昨年と今年は、ホワイトリングで１日、リレーやダンスなどの活動を行った。地元で長野オリンピックでの施設があることを再認識し、有効に活用する機会ともなった。

【Let's play Boccia（生徒会活動）－１２月】

	ボッチャのクラス対抗戦を運動委員会が企画し、トーナメント戦方式で昼休みを利用し、1週間にわたって戦いが繰り広げられた。学年関係なしの対戦は大いに盛り上がり、2年生どうしの決勝戦は、レベルの高いであった。9月の出前講座では競技する楽しさを味わったが、今回は、応援する楽しさを知ったり、クラスの代表者を応援し勝利や悔しさを味わったりなど、全校が1つな って活動できる機会となった。小学校で経験している生徒もあり、ボッチャが地域交流のきっかけになっていけると感じられた  9月に作っていただいたステージ上のコートとフロアに作ったコートで対戦。対戦が進むにつれ、大勢のギャラリーが試合を盛り上げました。
6 主な成果	・競技体験ばかりでなく、外国でも競技をしてきたからこそ見える障がいのある方へのかかわり方の日本と外国との違い、課題、良さを語っていただき、共生社会のあり方に学べる機会となった。 ・パラリンピックに関係する方にお越しいただいた。県内出身の方であるため、身近なこととして受け止めることができた。東京オリンピック・パラリンピック後の実施になってしまったのは残念だった。 ・ステージ上にボッチャのコートを作っていただき、昼休みに自由に活動できるようにした。 ・生徒会でも自主的にできることを考え実践してくれた。本事業での経験が新しい活動を生み出す結果となって良かった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	・本事業での学習が単発の活動にならないように、車いすマラソンアスリートによる講演会や生徒会活動、文化祭での運動会(昨年から更北オリンピックと改名)などとも関連付けながら活動を行った。 ・講演会は、2年続けて同じ講師にお願いした。本校の生徒の様子や放送機器等の環境をご理解いただいた上での講演となり、講師にとって安心でき、工夫を凝らしていた内容にしてくださいことができた。
8 主な課題等	・コロナ禍においてどう開催していくか。この2年間は校内の活動に留まってしまっている。地域とのかかわりを深められないでいる。 ・体験的活動は2学級ずつのため、学年6クラスで行うための日時の調整が難しい。
9 来年度以降の実施予定	・ボッチャは、幅広い世代で取り組める活動であり、パラリンピックを通じて広く知られることにもなった。本校では、福祉施設や幼稚園との交流が継続的に行われているため(ここ2年はコロナで中止)、活動の一部に取り入れてみたい。